

幼稚園

企画課管理用 教 ー C ー 1

推進主体	幼稚園
責任者	幼稚園長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教 ー C	学習院内の連携強化	令和 4 年度	令和 8 年度	あり(予定)

<b>① 目的・内容</b>
今まで、初等科とは運動会への参加や初等科祭見学、中等科とは保育体験学習の受け入れ、両高等科とは年に一度海外留学生と一日を過ごす日を設けてきた。更に大学馬術部や大学吹奏楽部応援団とも機会のある時に交流を深めてきた。これらはどれも幼児の実体験としてあらゆる刺激や感動また憧れや期待を生み、幼児期の成長を促すすぐれた活動となった。このような他科との交流は一貫教育校ならではのものであり、学校を跨いだ上下の関係はそれぞれお互いの成長にプラスとなることと考えている。交流の活動の中には、必ず幼稚園の卒業生の姿があり、その成長や様子から教育の在り方を教員として振り返る貴重な機会にもなっている。コロナ禍が続き、実施が難しいものもあるが、可能な限りの工夫をし、現状の交流に加え、新しい交流の仕方も模索し連携を強化していきたい。
<b>② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。</b>
・多様な文化や人に触れることで、幼児の遊びの生活がさらに幅広く充実したものとなる。

<b>③ ロードマップ</b>							
年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定							
行事の見直しとともに毎年組み入れる。							

<b>④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。</b>							
指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが収束に向かい、以前のように両高等科の留学生との交流が可能になれば、先ず実施を検討する。また、初等科や中等科とも同様に、今まで通りの交流ができるようになればすぐに再開を望む。</li> <li>・キャンパス内散策の際に実際に馬に触れる機会として、年長組だけでなく、年少組も大学馬術部と交流を図る方向で検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年ぶりに初等科の運動会に幼稚園として参加することができた。また、春季遠足では目白キャンパス内を散策し、年長組は大学馬術部との交流が叶った。また中高等科のグラウンドの空き時間を利用し、年長組年少組ともに十分に体を動かして遊ぶことができた。</li> <li>・秋のどんぐり拾いでも、目白キャンパス内を散策し、年少組も大学馬術部と交流し、馬とのふれあいを十分楽しんだ。</li> <li>・女子部高Ⅲの生徒をお迎えして、初めて「保育見学」という形での交流を実施することができた。</li> </ul>
令和5年度 (2023年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等科の運動会参加に加え、初等科祭に伺うことが可能になれば、年長組にとって進学する学校に足を運ぶ機会が増え、大きな意味があると考えます。</li> <li>・両高等科の留学生の都合がつくようであれば、以前のような交流を実施したい。</li> <li>・大学馬術部とは、引き続き交流を継続させ、大学生や馬とのふれあいを通して、様々な知識や経験を得ることができるようにする。</li> <li>・女子高等科の保育見学も引き続き実施に向けて検討をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等科の運動会に、年長組が遊戯を披露する形で参加することに加え、年少組も観覧するという形で参加が叶った。また、年長組は初等科祭にも伺うことができ、初等科進学のための参考テストの直後に、初等科生の作品を見る機会を得て、就学への期待が膨らむ嬉しい訪問となった。</li> <li>・両高等科留学生との交流も4年ぶりに再開でき、園児なりに様々な国、異文化に興味や関心を持ち、よい刺激を受けることができた。</li> <li>・女子高等科生との交流も実施できることになり、留学生とはまた違った形での交流に期待している。</li> </ul>
令和6年度 (2024年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等科の運動会への年長組の参加、初等科祭への訪問は、進学に向けて大きな意味を持つこととなるため、引き続き機会が持てることを願っている。</li> <li>・また両高等科留学生との交流は、園児にとってなかなかできない貴重な経験であるため、可能な限り実施を続けていただけるよう、検討をお願いしたい。</li> <li>・以前実施していた、中等科1年生の保育体験学習の実施再開の検討や、女子高等科の保育見学の引き続いての実施も出来るように願っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年ぶりに大学馬術部との交流が叶った。年長組が障害馬術を観覧し、馬との触れ合いと餌やりを体験した。大学馬術部の学生やOBとの交流では自ら他者に関わろうとする能動的な姿が芽生えた。</li> <li>・両高等科留学生との交流では、英語圏ではない留学生との触れ合いを通して、言語への興味を持ち異文化に親しむ機会となった。交流後にキャンパス内で出会う機会もあり他科の生徒への関心を育むきっかけとなった。</li> <li>・今年度も女子高等科生徒との交流を計画しており、異年齢の方との交流が促進される機会に恵まれた。</li> </ul>
令和7年度 (2025年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両高等科留学生、女子高等科生徒との異年齢、異文化交流を可能な限り続けたい。</li> <li>・大学馬術部には、馬との触れ合いにおいて手厚く対応いただき、次年度も年長組が交流の機会を持てるよう依頼する。また馬場の資源を活かし堆肥作りにつながる活動も検討中である。</li> <li>・コロナ前には、大学吹奏楽部の演奏会や未実施に終わったが生物部の方との触れ合いなども検討していた。今後、大学の課外活動との連携も行っていきたい。</li> </ul>	